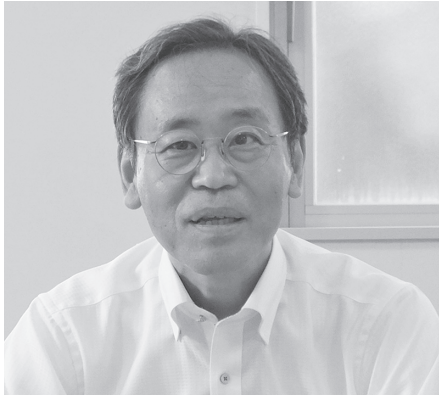


## エコレザー対談



橋本氏

橋本 和則氏

(株)ハシモト社長／兵庫県靴工業組合 理事長

吉村 圭司氏

(NPO)法人日本皮革技術協会 副理事長

稲次 俊敬氏

(NPO)法人日本皮革技術協会 副理事長

# OEMと並行して PBM「オットロッシ」を展開、 高品質な製品で「豊岡靴」を周知する

「品質第一」の姿勢を貫き  
著名ブランドのOEMを受注

**吉村** 8月号の当座談会では兵庫県靴工業組合の皆さんにご参加いただき、地域ブランド「豊岡靴」など組合活動についてお話していただきました。

今回は靴かばいメーカーである株式会社ハシモトの代表取締役社長で、兵庫県靴工業組合の理事長でもある橋本和則氏にご出席いただきました。

最初に会社の歴史からお聞かせ下さい。

**橋本** 1963年、父が創業しました。当時は母と二人で、スーツケースやトレンチケースを作っていた。

ました。枠はベニヤ板、胴体部分はボール紙で、表面は塩化ビニールを貼ったスーツケースです。当時はこういうものを持って旅行に行くのが普通でした。

当時の豊岡は塩化ビニール製の靴を欧米に輸出し、盛況でした。それがドルショックあたりから輸出が厳しくなり、父も箱物から袋物に変更しました。私は中学生のころから仕事を手伝いましたが、商売は厳しかったようです。

**吉村** 御社は現在、著名な国産ブランドのOEM生産が多いようですが、そこに行き着くまでの経緯をお聞かせ下さい。

**橋本** 私が高校生のころですが、

当時、豊岡では苦手としていたレディースの革バッグを、地元の間屋さん経由で注文がありました。当社は革のバッグは作っていなかったのですが、問屋企画で始めました。

東京に出たときは街で持たれているバッグを盛んに観察し、参考にしながら、自社製品も作りました。結局、商売にならず、OEM生産が主流になりました。そのうちに東京や大阪の間屋さんからも声が掛かるようになりました。

そんな中で、豊岡の産地研究をされていた大学の先生が国産で著名ブランドかばいの役員の方と親しくなり、豊岡に見に行くよう勧めてくれました。それがきっかけです。



稲次氏



吉村氏

**吉村** OEM生産では、品質に対しても厳しい会社と聞いています。

**橋本** はい、それはもう(笑)。ちょうどバブル経済がはじけた頃でしたね。豊岡も影響を受けていた時期に、役員の方に工場を見てもらいました。

実際に豊岡に来られる前は、「豊岡は安物の産地」という印象しかなかったようです。そして、「ハンモトは良いもの作るが納期を守らない」という評判を聞いておられたようです(笑)。

当社としては、この仕事に取り組みたい気持ちは強く、こちらから東京に向向いてお願いに行きました。

ちょうど人気芸能人がテレビ番組の中で持った同社ブランドのカジュアルバッグが大人気の時でした。サンプルの発注をいただき、提出したら1回で合格し取引を始めることになりました。

地域商標「豊岡靴」でいいものを作る産地をアピール

**稲次** 豊岡がいいものを作っている

こうという方向になったのはいつ頃からですか？

**橋本** いいものを作ろうという気持ちは以前からあったと思います。ただ、いいものでないと売れないということが分かってきたのは、13年前の2006年に、組合が地域団体商標「豊岡靴」を取得したことです。商標認定に参加していたメーカーにはそういう意識が強かったのではないのでしょうか。

メーカーが、「豊岡靴」に認定されて、そのネームを付けるには、組合員による非常に厳しい検査を通

らなければなりません。

現在、認定試験で合格するのは申請件数の3分の1で、残りの3分の2は落とされます。

そのくらいお互いが厳しく審査し、不具合な点を指摘するだけではなく、同時に改善策も提示することによって、その結果、豊岡の商品のレベルアップに繋がっています。このように皆で成長していくのです。

**稲次** そこまで厳しいのは珍しいかと思いますが。会社の代表になられて取り組んできたことは何ですか？

**橋本** 2001年、私が41歳の時に父親から社長を引き継ぎました。現在、50人ほどの社員がおり、自社工場内で一貫生産をしています。最初は一部の工程を外注することも考えました。

しかし、私の商品検品が厳しいため、外注先ではこの品質要求について来れず、結局、自社内での一貫生産になったのです。

この品質に対する厳しい姿勢については、OEM先からも評価していただいております。「改めて自社で



明るい工場で一貫生産される



オリジナルバッグ「オットロッシ」



工場には若い社員が多い

検品しなくても出荷できる」というほどの信頼をいただいています。

このものづくりに対する姿勢は社員全員が共有しています。

### 「PB」オットロッシで革バッグの製造技術を継承

**稲次** 自社ブランド「オットロッシ」を展開されていますが、これがハシモトさんの次のステップになりますか？

**橋本** 実は、組合が地域ブランド「豊岡鞆」を取得したときに、自社ブランドを立ち上げたのです。

しかし、OEM生産に追われて中途半端な形で終わっていました。

再度挑戦したのは、私が組合の理事長に就任した3年前でした。自社ブランドで「豊岡鞆」の認定に取り組まなければ、理事長として地域ブランドの話もできないわけです。

**吉村** 「オットロッシ」は、女性の仕事バッグで、使い勝手が良く、品もあり、クオリティの高いバッグに見

えます。

**橋本** ありがとうございます。当社は認定では後発だったのですが、他社がやっていないものを作ろうとしました。

いまは、地元のアンテナショップである「アルチザン・アベニュー」に出しているほか、近くの城崎温泉にある名産ショップとK-I-T-T-E（キッテ）丸の内店で販売しています。おかげさまで評判が良く、思っていた以上に売れています。

豊岡の鞆は、豊岡市の「ふるさと納税」の返礼品にも取り上げられ



2005年に移転、新築された本社工場

ており、うれしいことに鞆が一番人気です。当社のかばんは、10万円を超す納税がないと返礼品にはならないのですが、先週も4個出ています。

**吉村** 全国規模で見れば、いい革バッグに関心を持っている人は多くいるようです。

御社は革バッグの割合はどのくらいでしょうか？

**橋本** まだ、OEM生産が主力で、総革製のものほとんどありません。革の比率は低いです。ただし、これまでに技術を絶やさないうちに、少量でも受注し、職人を雇用してきました。

今はイタリアの革を使っていますが、次は日本の革を使って、もっと良いかばん作りにチャレンジしたいですね。

### エコレザーへの取り組みで「豊岡鞆」の新しい顔づくり

**稲次** 「豊岡鞆」で、日本エコレザーを使って発信されてはいかがでしょうか？

これは2009年にスタートし



橋本氏



上品なレディスバッグ「オットロッシ」



厳しい検品で出荷される

**橋本** 現在、豊岡で日本エコレザー

ザーのマークが付けられます。消費者がこれを目にする、この「豊岡靴」は有害化学物質の検査済みで、安心・安全な革で作られていることが担保されます。

た制度ですが、有害化学物質検査済みのほか、染色堅ろう度（色落ち）の基準もあり、また、タンナーが排水・廃棄物を不法に排出していないか、といったことも審査の対象となります。

ーを使っているところはありますか？

**稲次** OEM生産の中にはあるかもしれませんが、自社ブランドで使っているところはないと思います。御社が先駆けて取り組まれば、ブランドのさらなる差別化になります。また、組合員の皆さんが一斉にやろうとなれば、豊岡ではこういうモノもやっています」とアピルできて、「豊岡靴」の新しい顔になるかと思いますが。

**橋本** 豊岡は昔、当地の特産品でもある柳行李（ヤナギコオリ）で、革も使っていたという歴史があります。革靴のような小ロットの商品には向いているかもしれません。検討してみましよう。

**稲次** 日本エコレザーの普及に向けて、売場の店員さんやお客さんにエコレザーを理解していただくよう、啓発パンフレットも提供しています。英語版もあり、売場に置いてインバウンドのお客さんが非常に関心を示し、購買につながっている専門店さんの例もあります。

す。

**吉村** 日本エコレザーに認定された革や革製品については、（一社）日本皮革産業連合会のホームページで、認定番号から作り手が分かるようになっていきます。認定は5年間で、5年後に更新すれば、また同じ認定番号が使えます。

この日本エコレザーの認定基準は今年、改訂する予定です。国連が提唱するSDGs（持続可能性）な開発目標も取り入れながら、世界に発信していきます。ご期待ください。

### 日本エコレザー、6つの条件

- ①天然皮革である
- ②発がん性染料を使用していない
- ③有害化学物質の検査をしている  
(ホルムアルデヒド、重金属、PCP、禁止アゾ染料)
- ④臭気が基準値以下
- ⑤適切に管理された工場で作られた革  
(排水、廃棄物が適正に管理された工場で製造)
- ⑥染色摩擦堅ろう度が基準値以上



<http://japan-ecoleather.jp>